

## はじめに

本書は、研究者だけでなく外国語教育に携わる全ての方々に読んでいただきたい。外国語教育にAIの導入を推奨する本ではあるが、そのスタンスは「はじめにAIありき」ではない<sup>1</sup>。また、本書は、英語だけでなくさまざまな外国語の、しかも専門科目としてだけでなく教養科目としての外国語教育に携わる方々を対象にしている。

本書では、まずなぜ外国語の教育・学習にAIを導入する必要があるのかを考える。教育・学習で急速にAIが用いられるようになってきた。それにとまって教育・学習で用いられるAIの紹介、使い方の解説、さらにAIを導入した教育・学習の有効性に関する実証的研究なども数多く行われるようになってきた。これらのほとんどがAIありきでなされている。でも、まず考えなければならない重要なことが忘れられている。それは、外国語教育・学習にAIありきではなくて、指導者は自分が担当している科目で学習者がAIを用いる必然性があるのかどうかを問うてみることである。単に便利だから、指導者も学習者も楽できるから使うでは、すまされない重要な問題である。

AIを、指導者ではなくて、学習者が一般的に外国語学習に用いる必然性が考えられるのはつぎのような場合である。

- ① 瞬時に大量でかつ良質な翻訳が要求される。
- ② 教師なしでかつ時間と場所を選ばずにやりとりする練習が必要である。
- ③ AIを用いない場合よりも高い学習効果が得られる可能性がある。
- ④ AIを用いれば、実力以上の外国語力を発揮できる可能性がある。
- ⑤ AIを用いれば、さまざまな理由で教師ができない学習者各自に合わ

せた最適なサポートが可能になる。

- ⑥ AI を用いない場合よりも動機づけ(やる気、学習意欲)が高くなる可能性がある。
- ⑦ 将来に備えて翻訳 AI・生成 AI に習熟しておく必要がある。

しかし、現行の外国語教育の形態、目的はさまざまである。また、AI の能力は、コミュニケーションの面だけをとりあげても、人間の能力をはるかに超えようとしているが、AI を仲介させるコミュニケーションと人間同士のコミュニケーションは同じではない。したがって、AI を用いる必然性があるとは思わない教師がいても不思議ではない。また、AI を使わない従来どおりの教育・学習を実施するほうがより効果的な場合も当然ある。でも、現在実施している全ての教育・学習で AI を使わないという選択肢はもうない。少なくともいくつかの教育・学習では AI を使う必要がある。その理由は大別すると3つある。

- 理由1 AI は、学習者が実力以上の外国語力を発揮できるパワードスーツ
- 理由2 生成 AI は、本番にそなえて好きなだけリハーサルができるボクシングのサンドバッグ
- 理由3 学生は、在学中に翻訳 AI・生成 AI に習熟しておけば、社会人になってからも実力以上の外国語力を発揮できる

でも、この3つの理由を見て、外国語教育の指導者ならだれもが次のような疑問を抱くだろう。

- 疑問1 なぜ AI の使い方を変える必要があるのか。
- 疑問2 なぜ学習者が AI を用いる必要があるのか。
- 疑問3 AI があれば、もう外国語は学ぶ必要はないのではないか。
- 疑問4 AI があれば、もう教師は必要ないのではないか。
- 疑問5 生成 AI の回答は信用できないから教育に使うのはよくないの

ではないか。

疑問6 学生はAIを使っても、外国語力をつけることはできるのか。

疑問7 課題を学生がやったのかAIがやったのかわからないから、正しい評価ができないのではないか。

本書は、この7つの疑問が杞憂にすぎないことを示すと同時に、もはや外国語の教育・学習でAIを使わないという選択肢がないことを論述する。第1章「AIを外国語の教育・学習で使わない選択肢はもうない」では、「外国語習得の3つの条件」と動機づけ(やる気)の保持、強化に必要な「3つの心理的欲求」の充足とを関連づけて、なぜAIを教育・学習で使わない選択肢はもうないのかを説明する。第2章「実践1: AI とのはじめ一歩」では、翻訳AIと生成AIの基本的な使い方をやさしく解説し、AIを導入した授業を紹介する。第3章「外国語教育・学習のためのAIリテラシー」では、AIをうまく使いこなし、それを教育につなげるには人の助けが必要なことを示し、どのような工夫をしなければならないのかを考える。第4章「AIとCEFR」では、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)の唱導している複言語・複文化主義に基づく言語教育はAIと相性が良く、うまく実践できることを示す。第5章「AIとフレーム問題、記号接地問題、身体性」では、AIのウィークポイントとも言えるフレーム問題、記号接地問題、身体性を論じている。このAIのウィークポイントは、第3章で論じている「AIとの共生・協働」をするために心得ておくべきことである。第6章「AIの現在から未来へ: AIを用いるこれからの時代の外国語教育」では、特に今後、近未来にアプリはどのように進化し、教育にどんな影響を与える可能性があるのかをアプリの開発者自身が論じている。AIの外国語教育への導入に対しては、さまざまな意見がある。実際に実践されている先生達はどのように感じているのか、また彼らには周りからどのような感想が寄せられているのか。このテーマは、実践例紹介とともに第7章「実践2: AIでさらに一歩先へ」で扱う。最後の第8章「特別企画: 鳥飼玖美子先生が語る次世代のための英語教育」には、英語教育の第一人者であるだけでなく、英語以外の外国語教育のあり方や外国語教育の実用以外の目的にも造詣が深い稀有な存在である鳥飼

玖美子氏へのインタビューを収録した。

AI は、18 世紀の産業革命に相当するような影響をさまざまな分野に与えている。今や AI と人間とが共生・協働する時代に入っている。外国語でコミュニケーションをする場合でも、AI と人間とが役割分担をする必要があり、外国語教育・学習の分野にも AI はパラダイムシフトを迫っている。

2025 年 3 月 30 日

大木充

#### 注

- 1 DeepL などの翻訳 AI と ChatGPT などの生成 AI の区別をする必要がない場合は、単に AI と呼ぶことにする。生成 AI でも翻訳はできるが、そのプロセスは翻訳 AI と同じではない。翻訳 AI と生成 AI の仕組みの違いについては、杉山氏が執筆された本書の第 6 章を参照されたい。

## 目 次

はじめに	iii
<b>第 1 章 AI を外国語の教育・学習で使わない選択肢はもうない</b> ..... 1	
大木充	
<b>第 2 章 実践 1：AI とのはじめの一步</b> ..... 15	
岩根久	
<b>第 3 章 外国語教育・学習のための AI リテラシー</b> ..... 49	
大木充	
<b>第 4 章 AI と CEFR</b> ..... 75	
大木充	
<b>第 5 章 AI とフレーム問題、記号接地問題、身体性</b> ..... 91	
田中彰吾	
<b>第 6 章 AI の現在から未来へ：AI を用いるこれからの時代の外国語教育</b> ..... 105	
杉山滉平	

<b>第7章 実践2：AIでさらに一歩先へ</b> .....	117
AIと共存する英語ライティング課題と評価方法.....	117
小田登志子	
機械翻訳・生成AIを活用したライティング.....	123
藏屋伸子	
中国語観光プロモーション動画制作のプロジェクト学習.....	131
杉江聡子	
AIによる英語ライティング評価.....	140
河内健志・斎藤隆枝・安保勲人	
AI時代に求められる外国語能力と教育とは？.....	147
杉山香織	
AI×教育：活用と課題をめぐる座談会.....	154
第7章執筆者一同	
<b>第8章 特別企画：鳥飼玖美子先生が語る次世代のための 英語教育</b> .....	161
話し手：鳥飼玖美子	
聞き手：小田登志子	
おわりに .....	181
執筆者紹介 .....	182